

氏名	小川孔美	部署	社会福祉子ども学科	職名	准教授
研究分野	・高齢者福祉 ・高齢者虐待防止 ・専門職連携教育 (IPE) & 専門職連携実践 (IPW)				
学位	修士 (社会福祉学)				
学歴	1999年日本女子大学社会福祉学科、2001年日本女子大学大学院 人間社会研究科 社会福祉学専攻博士前期課程、2016年 首都大学東京大学院 人文科学研究科 社会行動学専攻 社会福祉学 後期博士課程満期単位取得退学				
経歴	1989年 国立国際医療研究センター国府台病院看護部、1992年 国立がん研究センター東病院看護部 2003年 埼玉県立大学保健医療福祉学部 社会福祉学科助手、2011年 埼玉県立大学保健医療福祉学部 社会福祉学科 講師 2018年 社会福祉子ども学科 准教授				
所属学会 (役職)	日本社会福祉士学会、日本高齢者虐待防止学会、日本保健医療福祉連携教育学会 (IPW委員会)				

【2020年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	超高齢社会のなかで共に生きるということ	単著	なし	修親刊行事務局、P89	修親刊行事務局	2020.4
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	住民主体生活支援型地区サロン利用者へのソーシャルワーク多職種連携の必要性が考えられる事例からの一考察	単著	あり	『ソーシャルワーク研究』46(1)	ソーシャルワーク研究編集委員会編	2020.4
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者 (発表者は○印)	発表等年月	
1	該当なし					
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者 (発表者は○印)	発表等年月	
1	コロナ感染対応に関する地域課題～埼玉県保健医療部感染症対策課の回答をふまえて～	単独	埼玉葛南専門職連携推進 ねっとわーく	○小川孔美	2020.10	
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称		研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	平成30年度 (第49回) 三菱財団社会福祉事業・研究助成		地域連携・協働を基盤とした住民主体による課題解決力強化のための包括的相談支援体制モデルの構築,	研究代表 小川孔美・研究分担者 木下聖	1年半 (2018.10~2021.3)	
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)		
1	高齢者福祉論	○	15	高齢者福祉における最近の動向について、厚生労働省の各種審議会、介護保険制度の最新情報を取り入れた講義を展開		
2	社会福祉概論		15	対象が1年生のため、社会福祉の基本的概念が深まり、興味、関心が持てる内容を題材とし、特に社会福祉の歴史、多職種による連携、高齢者福祉について動画等を導入し、講義した。		
(2) 演習						
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)		
1	社会福祉専門演習Ⅰ	○	15	社会福祉の対象を見つめる視点を掘り下げるとともに、大学生としてのアカデミックリテラシーの向上となる演習を行った。また、地域共生の動向をとらえ、市の地区センターの協力を得て、学生をフィールドワークを取り入れている		
2	社会福祉専門演習Ⅱ	○	15	社会福祉の対象を見つめる視点を掘り下げるとともに、大学生としてのアカデミックリテラシーの向上となる演習を行った。また、地域共生の動向をとらえ、市の地区センターの協力を得て、学生をフィールドワークを取り入れている		
3	社会福祉専門演習Ⅲ	○	15	社会福祉の対象を見つめる視点を掘り下げるとともに、大学生としてのアカデミックリテラシーの向上となる演習を行った。また、地域共生の動向をとらえ、市の地区センターの協力を得て、学生をフィールドワークを取り入れている		

4	社会福祉専門演習Ⅳ	○	15	社会福祉の対象を見つめる視点を掘り下げるとともに、大学生としてのアカデミックリテラシーの向上となる演習を行った。また、地域共生の動向をとらえ、市の地区センターの協力を得て、学生をフィールドワークを取り入れている
5	ソーシャルワーク演習Ⅳ		15	社会福祉におけるコミュニティワークの概念が定着できるよう、コミュニティへのアプローチに関する提案（支援プログラム）の必要性等について、フィールドリサーチを取り入れ、社会各資源との調整と助言に力を入れた。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ソーシャルワーク実習Ⅰ	○	学内実習 2021年2月～3月：1	新型コロナウイルス対策について、教員間および学生に周知し徹底した。
2	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	○	15	SW実習Ⅰに向けて、事前学習が深められるよう、各種資料等の提供を豊富に準備した
3	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	○	15	SW実習Ⅰの体験をさらに深めるための助言及び報告書作成について個人の持つ思いを大切に指導した。
4	IPW実習		2020.4～2020.10	対象施設のFTと綿密に連絡をとりながら学生が学びやすい環境を確保し、FTの原則にもとづき指導した
(4) 論文指導				
	対象		期間	主指導・副指導の別及び指導人数
1	卒業課題研究指導		2020.4～11	主指導 4名 副指導 2名
(5) その他				
	名称		期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	サークル活動顧問4サークル【学生ボランティア団体MAGO、子育て食堂たんぼぼ、卓球 S-MASH、僕らの夏休みProject 埼玉県立大学支部】		2020.4～2021.3	<p>○ZOOMを使用し、草加市にある地域密着型デイサービスセンターLLUL(ラル)の利用者様、専門職との交流会を実施。施設にとっては、オンライン交流は初めてであり、不慣れな部分もあったが、利用者様たちは大変喜んでいただいたと担当者より評価をいただく。</p> <p>○利用者様のお誕生日にむけたバースデーカードの送付。泣いて喜んでとご報告いただく。作成したカードは大きなTV画面に映して、職員の方が個人個人のメッセージを読み上げ、ハッピーバースデーの歌を歌い、誕生日会を開催したとのこと。最後に作成したカードは印刷してラミネートをかけ、ご本人にお渡しいただいた。</p> <p>○越谷市社会福祉協議会との遠隔による交流検討 コロナ禍でも行える、このような、新しい試み、工夫について、多く議論し実施した。</p>
2	IPW総合課程（大学院）		2020.9～2020.12	IPWに必要とされるファシリテーションスキル
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称		主催	講演、研修、公開講座等のテーマ
1	埼玉葛南専門職連携推進ねっとわーく研修会		埼玉葛南専門職連携推進ねっとわーく	コロナ禍における多職種連携とACP
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称	任期
1	一般社団法人 地域ケア総合評価機構		理事	2011～現在
2	越谷市医師会事務局医療と介護連携世話人会		世話人委員	2015～現在
3	NPO法人地域とともに生きるナノ		理事	2018～現在
4	蓮田市 地域包括ケア推進代表者会議		顧問	2018.4～現在
5	八潮市地域包括支援センター運営協議会委員		運営協議会委員	2019.7～現在（2022.6.30までの予定）
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称		内容	年月
1	該当なし			

(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目		内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	学生支援委員		2020.4～2021.3
2	全学的委員会及びセンター業務等	地域専門職連携推進部会		2020.4～2021.3
3	全学的委員会及びセンター業務等	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会理事		2020.4～2021.3
4	全学的委員会及びセンター業務等	SPU学会学術集会運営委員長		2020.4～2021.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名		主催	受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名		特許番号	登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
	該当なし			